

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・「学校が楽しい」、「授業が楽しい」等、学ぶ意義や喜びを実感する授業改善。 ・自分らしさを生かし、自らの可能性を伸ばす個別最適な学びと協働的な学びの実現。 ・自発的・自治的な学級活動・児童会活動の工夫。	A	・昨年度より「子供が創り出す学びの実現」を研究主題に掲げ、児童が問いや願いをもち、自己調整しながら学習に取り組む実践研究を行っている。「学校が楽しい」「授業が楽しい」と回答する児童の数値が向上した。 ・教科間の連携を捉え、教育課程全体を工夫改善していく必要がある。 ・児童集会(動物村なかよし集会)では、子どもたちが楽しく豊かに学校づくりに参画する意識を高めることができた。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・教育DX、SDGs、STEAM教育等の観点を踏まえ、地域資源(人や自然、社会)の有効活用による新たな学び「西っ子MIRAI's」の創出。 ・小中一貫・幼保小の接続による学びの積み重ねと家庭・地域と連携し未来への希望を描く活動の充実。	A	・「西っ子MIRAI's」では、地域の方を外部講師に招き、地域とつながる活動を推進することができた。 ・中学校1日入学、新1年生1日入学等において、体験的な学習の場を位置付け、幼保小中の学びがつながるように工夫することができた。 ・幼保小中との情報交換を日常的に行うことで、個々の特性を互いに理解し合い、指導援助に役立てることができた。 ・HPIによる発信を充実させることができた。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	・児童や教職員が「学校は楽しい」と感じ、安心して学びに向かうことができる学校・学級づくり。 ・教職としての指導力・人間力の向上と働き方改革の推進の両立。 ・教職員のニーズに応じ主体的・自律的に学ぶことができる研修の工夫改善。	B	・児童が自己有用感を育み、安心して生活することができる学級づくりに努めることができた。また、学年会の充実を図り、情報共有することで見通しをもった学級経営を行うことができた。「学校が楽しい」と回答した児童は、95%であった。 ・課題を抱えた児童に対する具体的な事例検討を充実させ、より組織的に当該児童等への支援を充実させていく必要がある。 ・教職員に対して、主体的に研修に取り組むことができる機会を提供した。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・体験的な活動を通して、命の大切さや尊さを実感する学習の充実。 ・非常変災・不審者対応等、多様な場面を想定した「命を学ぶ訓練」の工夫改善。 ・いじめ事案等、課題を一人で抱え込むことなく、速やかに情報の共有を図り組織的に対応。	B	・消防署や警察署、地域の関連団体と連携を図り、体験的な安全教育を推進することができた。 ・多様な設定での「命を守る訓練」を実施し、事後には学年や指導部で振り返り、年間を通して安全意識を高めることができた。 ・年間8回のアンケートを活用し、教育相談の充実を図った。いじめ・不登校の早期発見・早期対応及び未然防止に向けて、より一層教職員間の情報共有と組織的な対応を充実させていく必要がある。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・自他のよさや成長、ふるさとの魅力を感じとることができる校内環境の整備。 ・「ヒヤリ・ハット事案」の共有による、安全な校内環境の点検・整備。 ・経営の重点を踏まえた意図的・計画的な予算執行と、複数のチェック体制の整備等適切な会計処理の徹底。	B	・自分の良さや頑張り認められ、地域の魅力を感じることができる場の設定や、全校で共有することができる掲示物等の工夫改善を図ることができた。 ・事故の教訓を生かした速やかな注意喚起や危険箇所修繕等、子供たちが安心・安全な学校生活を送ることができるように努めた。 ・会計処理については、担当、学年主任、事務職員、教頭等、多くの職員目目でチェックしていくことができた。

学校名 長良西小学校

校長名 服部 晃幸

学校関係者評価委員会から	改善の方向
・委員会活動や集会活動、縦割り活動が充実しており、子どもたちが多様な関わりを通じて成長している様子を感じることができた。 ・共働きの家庭にとって、土曜授業の振替休日として月曜日休みは困るため、振替休日を減らせないか。	・「子供が創り出す学びの実現」に向けた実践研究を積み上げていく。特に、教科間の連携や児童の日常生活と関連した学びに着目していく。 ・授業における子供の様子を家庭や地域に発信していくことができるようにする。
・地域の様々な団体との関わりを大切にしており、その中で子供が大きく成長していると実感している。 ・地域の方々はもちろんのこと、保護者のボランティアも学校行事に積極的に参加することができるようにしていくことで、より子供の成長につながると感じる。	・「西っ子MIRAI's」の取組において、今後も地域資源をより効果的に活用していく。 ・地域や保護者の方との関わりを増やしていくことで、自らの生き方を創り出していく取組の一層の充実を図る。 ・幼保小連携協議会の内容を工夫し、幼児教育とのつながりを大切にしていく。
・多くの職員に子供が声をかけてもらっている様子が伺える。多様な関わりで育てていることを感じる。 ・保護者アンケートにおいて「学校が楽しい」と回答したのは、97%であった。 ・先生方があまりに行事や研究などで忙しすぎると、本来大切にしていかなければならない毎日の基本的な学習や大切な生活指導などに時間が費やせなくなるのではないか。	・いじめ・不登校未然防止の取組や課題を抱えた児童が安心して過ごすことができる環境整備を進める。 ・教職員の働き方改革を一層進めるとともに、働きがいを感じ笑顔で子供の前に立つことができるカリキュラムの見直し、組織づくりに努めていく。 ・主体的に研修に参加し、教職員自身が実践力の向上を自覚する研修体制の改善を図っていく。
・関係機関や地域と連携を図って、多くの学年で防災を視点とした教育を行うことができていた。 ・岐阜市基盤整備部道路建設課が主催した「通学路安全対策ワークショップ」を通して、保護者や地域の安全協会の方と安全対策の検討を行うことができた。 ・子供同士の小さなトラブルにも早急に対応しており、子供の幸せにつながっている。 ・いじめ悩みアンケートが形骸化しないように、内容や方法の改善が必要ではないか。	・「命を守る訓練」において、児童自らの判断力・行動力を高めていくことができるよう、実施方法を工夫していく。 ・アンケートに反映されない児童の課題を見逃すことのないよう、教職員間の情報共有や事例の検討方法を改善し、よりきめ細かな支援態勢を構築する。
・学校のみならず、家庭や地域においても子供たちのよさを認めていく取組を進める必要がある。 ・登下校において、旗当番が立っている場所以外にも危険箇所は多くあり、より一層通学路の安全の見守りや環境改善に努めていく必要がある。	・学校内外において、児童が輝いている姿を積極的に価値付け、自己肯定感を育む取組を推進する。 ・地域の危険箇所については、関係機関や関係団体と情報を共有し、安全確保に努めるとともに、児童自身の安全に対する意識の向上を図っていく。事故やヒヤリハット事案については、速やかに情報を共有し、具体的な対策を講じていく。